

平成25年ホヤ類調査結果速報 No. 4

平成25年10月22日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

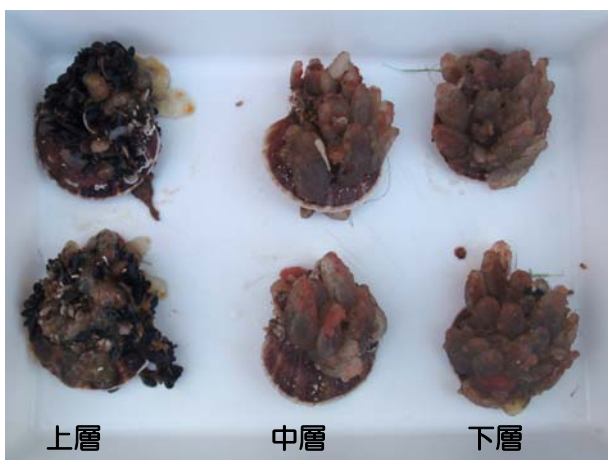
【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

10月19日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物およびヨーロッパザラボヤ浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数は減少しました(図3上)。体長5mm以下の個体の割合は非常に小さく、耳吊りホタテガイへのヨーロッパザラボヤの新たな付着はほとんど起きていないと考えられます(図2)。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり平均18.5個体で、H23、24年よりも多いですが、H22を大きく下回っています(表1、図3上)。特に、今年の八雲では上層の付着が少ないようです。今後は、H23、H24と同様、付着重量は緩やかに増加していくと予測されます(図3下)。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現は継続していますが、密度は過去3ヶ年と比較して低くなっています(図4-2)。過去のデータから、11月以降、浮遊幼生の増加は見られないことから、今後、耳吊りホタテガイへの新たな付着はほとんど起きないと考えられま

図1. 採取した耳吊りホタテガイ(平成25年10月19日 八雲地区)



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL：0138-57-6074 FAX：0138-57-5991

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

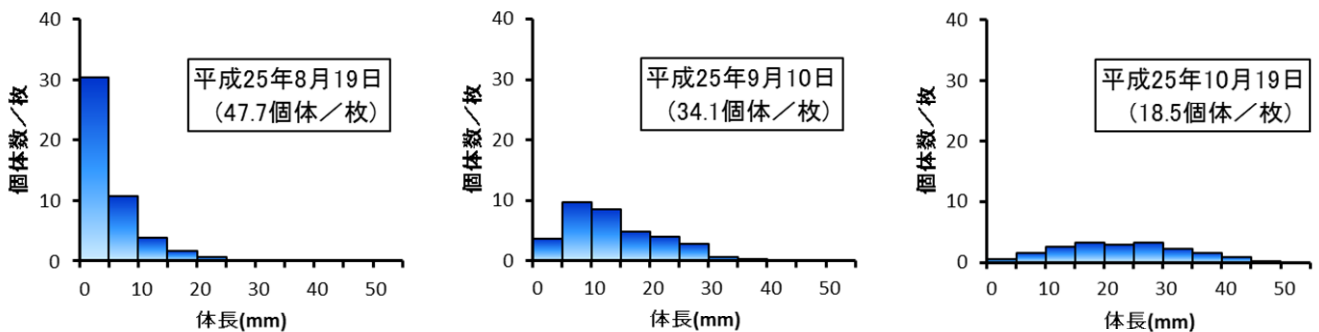
〔調査月日：10月19日、調査場所：八雲沖 水深約30m、上中下層 各5枚〕

10月19日に八雲調査定点（水深約30m）の垂下養殖ホタテガイの付着生物調査を行いました。ホタテガイを上層、中層、下層ごとに5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を採取しました。ヨーロッパザラボヤの平均個体数はホタテガイ1枚あたり18.5個体、平均サイズは22.7mmです。5mm未満の個体の割合は小さく、新たな付着はほとんど起きていないと考えられます。ヨーロッパザラボヤの付着重量は28.2gとまだ少ないですが、今後、付着個体の成長にともない、増加していくと考えられます。

表1. 付着生物調査結果（八雲地区：平成25年10月19日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	64.5g	72.5g	45.5g	60.8g
ヨーロッパザラボヤ	2.8g	53.8g	28.0g	28.2g
その他	61.6g	18.6g	17.5g	32.6g
ヨーロッパザラボヤ個体数	1.4個体	28.0個体	26.2個体	18.5個体
平成24年10月(H24.10.22)の個体数	11.6個体	9.0個体	28.4個体	16.3個体
平成23年10月(H23.10.11)の個体数	7.4個体	7.4個体	5.8個体	6.9個体
平成22年10月(H22.10.14)の個体数	35.0個体	123.2個体	186.2個体	114.8個体

図2. 平成25年のサイズ組成の季節変化（八雲地区：平成25年8月～10月）



参考： 付着が継続した年のサイズ組成の季節変化（八雲地区：平成22年8月～10月）

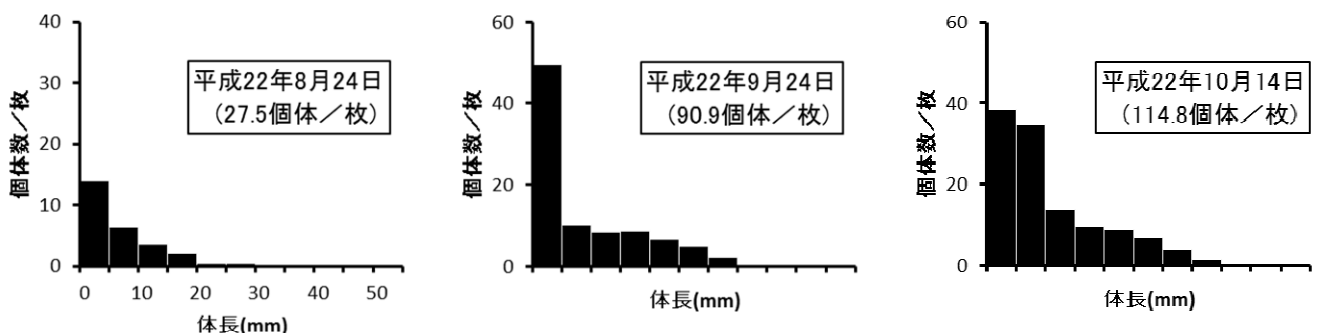
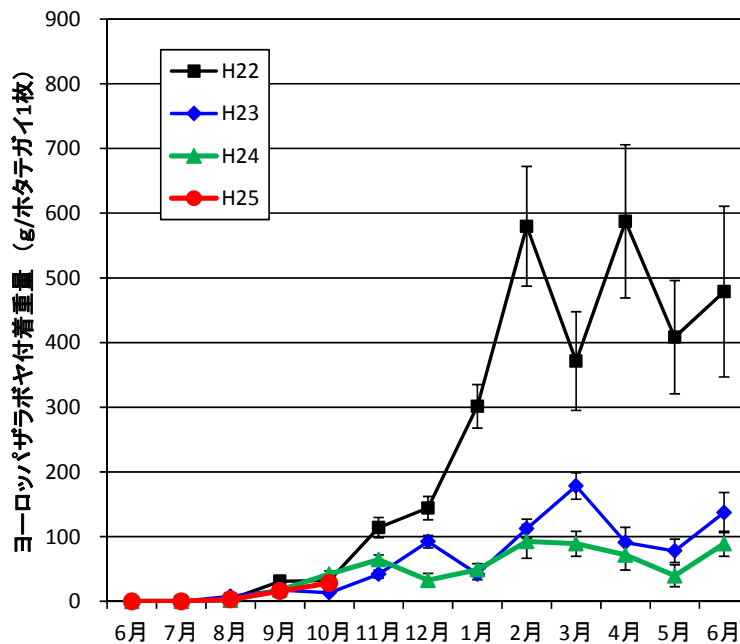
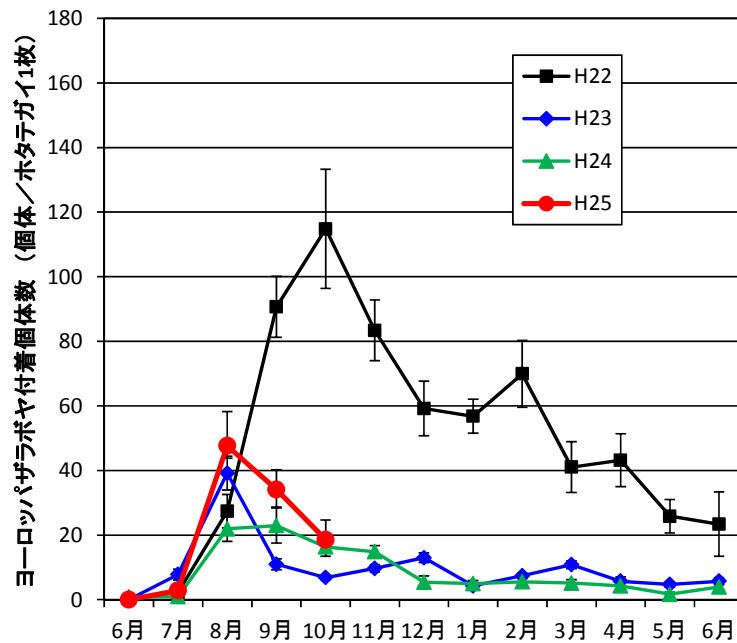


図3. ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。H22～H24 はいずれも7月頃にホタテガイへの付着が始まっています。H22は個体数の増加が10月頃まで続き、ホタテガイ1枚あたり100個体を超えました。H23、H24の個体数の増加は8月頃に終息し、ホタテガイ1枚あたりの付着個体数は最大20～40個体でした。その結果、H22は冬季（収穫期）に付着重量が急増したのに対して、H23～H24の付着重量の増加は緩やかでした。H25（今年）は9月以降、付着個体数が減少に転じており、今後はH23、24同様に付着重量が緩やかに増加していくと考えられます。

2：浮遊幼生調査結果

2-1. 八雲地区（八雲漁港沖合）調査結果

〔調査月日：平成 25 年 10 月 19 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m〕

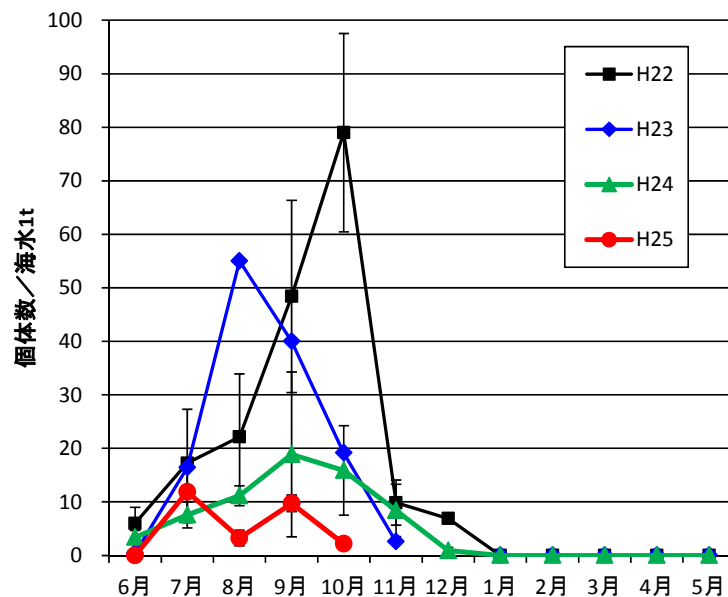
ヨーロッパザラボヤの幼生(図 4-1)は3地点の平均で海水 1t あたり 2.2 個体でした(図 4-2)。先月(9.7 個体)より減少し、過去 3 ヶ年と比較しても少ない結果です。

図 4-1. ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温 20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約 14 時間で孵化します。図 4-1 は 20℃条件で受精から 22 時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温 20℃の条件で、孵化から 6 時間後(受精から 20 時間後)には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図 4-2. ホヤ幼生密度の経年比較（八雲地区）



噴火湾の「ザラボヤ」に関する参考資料について

平成 20 年以降、噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着しているホヤ(通称「ザラボヤ」)は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが判明しています。ヨーロッパザラボヤの特徴や在来種との識別方法等については、北海道立総合研究機構水産研究本部 HP (<http://www.fishexp.hro.or.jp/>) に公表されている以下の資料を参考としてください。

- 金森誠：噴火湾のザラボヤの正体—外来種ヨーロッパザラボヤ—(試験研究は今 No.707)
- 金森誠：外来種ヨーロッパザラボヤの道内の分布について(試験研究は今 No.731)
- 金森誠・馬場勝寿・長谷川夏樹・西川輝昭：外来種ヨーロッパザラボヤの生物学的特徴および簡易識別、同定について(北海道水産試験場研究報告 81：151-156)